

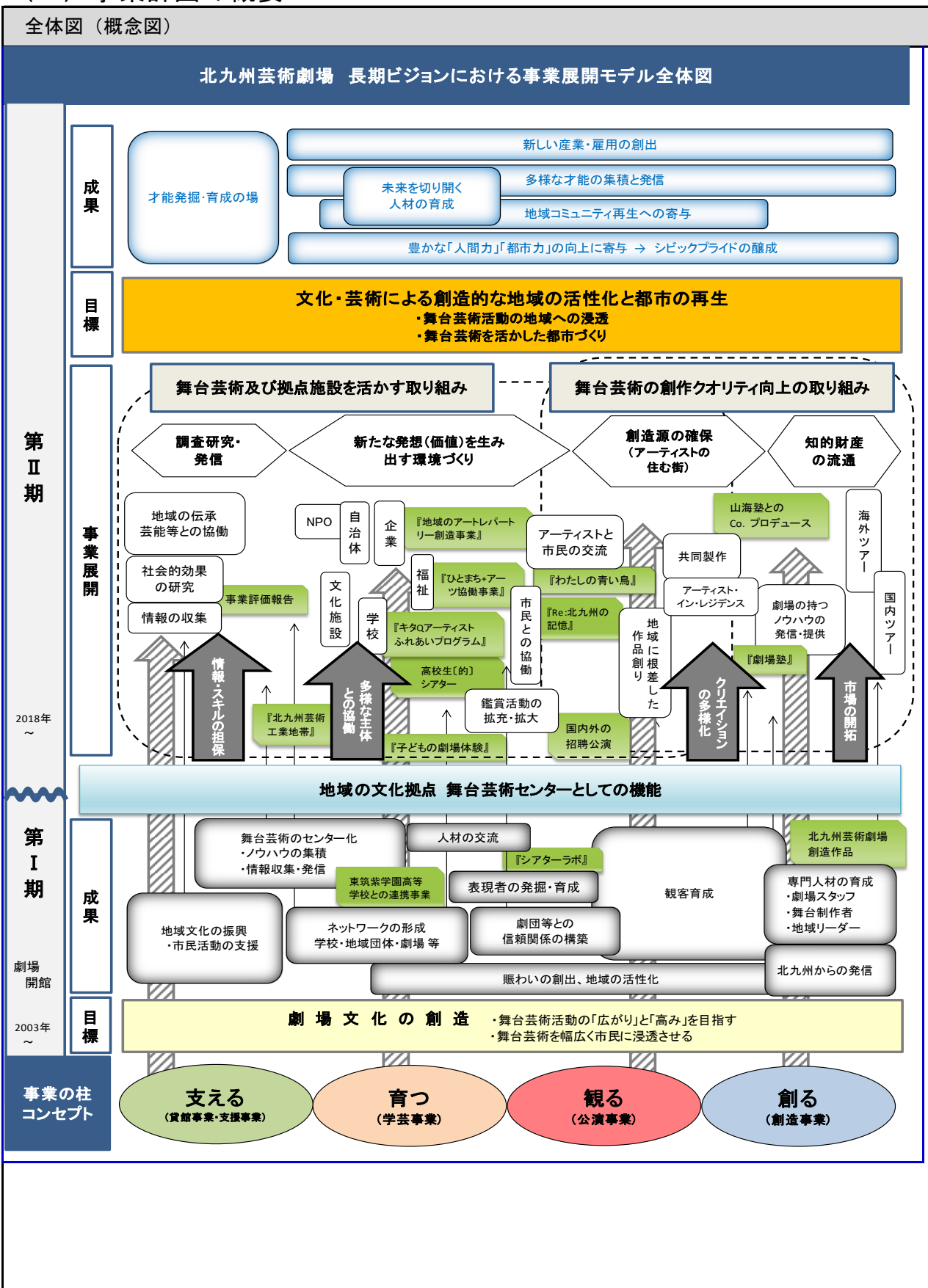
平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
施 設 名	北九州芸術劇場
助成対象活動名	創造都市=クリエイティブ・シティ実現に向けた『北九州芸術劇場・長期ビジョンに基づく中期計画』
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	38,052 (千円)

事業概要

(1) 事業計画の概要



(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	寿歌	平成30年5月26日～5月27日	作：北村想、演出：宮城聡 出演：SPAC/奥野晃士、春日井一平、たきいみき	目標値	112
		小劇場		実績値	192
2	北九州芸術劇場70周年/市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2018」	平成30年5月11日～7月1日	指揮・合唱指導：樋本英一 ソプラノソロ：伊藤晴 ピアノ：白石光隆 作曲：長生淳 台本・演出・ナレーション：能祖将夫	目標値	500・100
		中劇場ほか		実績値	411・82
3	フィリップ・ドゥクフレ/DCA『新作短編集(2017)』	平成30年7月5日～7月8日	演出・振付：フィリップ・ドゥクフレ 出演：カンパニーDCA	目標値	958
		中劇場		実績値	545
4	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2018—海外編—	平成30年7月20日～7月22日	出演：キャサリン・ウィールズ劇団(スコットランド)	目標値	270
		小劇場		実績値	267
5	マシーン・ドゥ・シルク	平成30年8月2日	演出：ヴィンセント・デュベ 音楽：フレデリック・ルブラサル 出演：ヨハン・フラデット・トレパニエ他	目標値	508
		中劇場		実績値	593
6	ダンスダイブウィーク	平成30年9月9日～9月23日	出演：森下真樹 振付：MIKIKO、森山未来、石川直樹、笠井毅 ワークショップ講師：康本雅子、井手茂太 他	目標値	1,500
		小劇場、市内各所		実績値	237・87
7	Re:北九州の記憶	平成30年4月～平成31年3月	構成・演出：内藤裕敬(南河内万歳一座)	目標値	192
		小劇場		実績値	337
8	北九州芸術劇場プロデュース九州男児劇「せなに泣く」	平成30年4月7日～12月2日	作・演出：田上豊	目標値	480
		小劇場		実績値	559
9	山海塾「Arc 薄明・薄暮」世界初演	平成31年3月23日～3月24日	振付・デザイン・演出：天児牛大 舞踏手：蟬丸、竹内晶、市原昭仁、松岡大、石井則仁、百木俊介、岩本大紀、高瀬誠	目標値	1,060
		中劇場		実績値	781
10	Stogap Dance Company 「The Enormous Room」	平成31年3月14日～3月16日	振付：ルーシー・ベネット 出演：デーヴィッド・トゥール、ハンナ・サン普森、メリツェル・チェカ 他	目標値	91
		小劇場		実績値	109・26
11	夏休み！子どもの劇場体験2018	平成30年7月30日～8月2日	コーディネーター：守田慎之介、リーダー：穴迫信一、高野桂子、アシスタント：高野由紀子	目標値	30
		小劇場ほか		実績値	30
12	劇場塾2018	平成30年10月13日～12月21日	講師：カミイケタクヤ、守田慎之介、大月ヒロ子、多田淳之介、高橋岳蔵(劇団☆新感線)	目標値	90
		創造工房ほか		実績値	133
13	シアターラボ	平成30年7月～平成31年3月	戯曲講座講師・演出アドバイザー：泊篤志(飛ぶ劇場) アシスタント：守田慎之介(演劇関係いすと校舎)	目標値	150・35
		創造工房ほか		実績値	171・43
14	東筑紫学園高等学校演劇類型連携事業	平成30年12月～1月	講師：岩崎正裕(劇団太陽族)、加賀田浩二(北九州芸術劇場)	目標値	20
		東筑紫高等学校		実績値	51
15	高校生〔的〕シアター	平成30年4月～平成31年3月	講師：柴田隆弘(舞台美術ワークショップ)、多田淳之介(演劇ワークショップ)	目標値	110
		中劇場、小劇場		実績値	118
16	キタQアーティストふれあいプログラム	平成30年9月～11月	講師：北尾亘、セレノグラフィカ、有門正太郎、守田慎之介	目標値	1,000
		市内小中特別支援校		実績値	705
17	ひとまち+アーツ協働事業	平成30年4月～平成31年2月	講師：セレノグラフィカ、北村茂美、有門正太郎、守田慎之介	目標値	350
		市内福祉施設ほか		実績値	343
18	地域のアートレポーター創造事業	平成30年4月～11月	「リバダン」振付：近藤良平 音楽：吉田トオル 「そらダン」振付：康本雅子 音楽：オオルタイチ	目標値	3,000
		市内商業施設ほか		実績値	241
19	北九州芸術工業地帯	平成30年9月～3月	「うるきんさ」振付：康本雅子 構成：成井昭人 「モノレール公演」作・演出：穴迫信一(ブルーエゴナク)	目標値	360・300
		市内各所		実績値	474
平成30年度の目標値、実績値				目標値	11,216
				実績値	6,535

【妥当性】

自己評価

事業計画に必要な構成要素が関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

当劇場は、劇場運営の基本方針〈にぎわいの拠点・地域文化の拠点・文化創造の拠点〉に基づく4つのコンセプト「創る・育つ・観る・支える」において演劇やダンスを中心とした事業運営を行っており、「北九州芸術劇場・長期ビジョンにおける事業展開モデル全体図」に沿って計画した中期計画に基づき事業を進めている。

長期ビジョンにおける目標として、『文化・芸術による創造的な地域の活性化と都市の再生』を掲げ、「舞台芸術活動の地域への浸透」と「舞台芸術を活かした都市づくり」の達成を目指し、実施事業全体のバランスを図りつつ、事業を組み立て実施している。

国内外から多様な舞台芸術作品を招聘し、幅広い層に向けて舞台芸術の多様性を提示し、新しい出会いを創出するとともに、九州圏域での鑑賞の拠点施設としてのプレゼンスを高め、国内外への発信による地域のアピールとブランドアップに寄与している。

次に、第一線で活躍するアーティストや地域市民とともに地域に根差したオリジナル作品を創作し、作品を創造する人材育成の拠点として地域の表現者やスタッフを積極的に起用するなど地域で活動する人材の育成や地域での創造活動に挑戦できる場を提供することで、地域全体の創造力を高め、実演芸術の水準向上へ貢献している。

また、地域の多様な主体との連携や協働、未来を担う子どもたちへのアプローチなど、舞台芸術が持つ力や劇場が持つ地域の拠点施設としての機能を活かす取り組みを丁寧かつ着実に進めていくことで、その力を市民に広く還元し、新しい発想や価値を生み出す環境づくりへと繋げている。

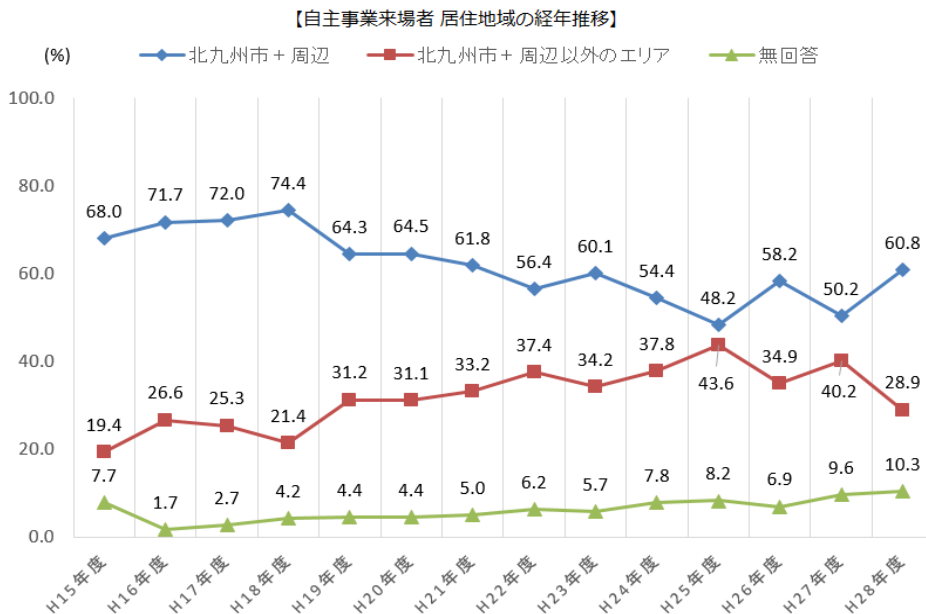
このように、劇場全体の事業展開としては当初の計画に沿って実施を行っており、今後もこの方針の基、事業を進めていく。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当劇場は2003年の開館より16年目を迎えたが、開館からの事業コンセプトは変わることなく、そのコンセプトに基づき様々な事業を実施している。また、舞台芸術センターとしての地域の文化拠点の役割を担い、文化・芸術による創造的な地域の活性化と都市の再生を目標とする長期ビジョンに沿った事業展開を継続している。

これら事業の実施においては、舞台芸術の持つ力を活用し、多様な地域住民の参加や教育・福祉・観光・文化など多様な主体との連携・協働による事業、地域資源などを活かした作品創りなど、単発実施だけでなく中長期的なビジョンを持った事業展開を設計し、実施することで地域に根づく劇場としての役割を果たしている。また、作品規模の大小にかかわらず国内外から優れた作品を招聘し、地方においても首都圏と変わらず舞台芸術を享受できる環境を構築したり、作品創作という創造的な活動を継続し続けていることにおいても、拠点としての役割を果たすだけでなく、北九州市域外からの集客による地域での交流人口の増加や舞台芸術に携わる人材輩出など地域の活性化にも繋がっている。

当劇場が行っている事業評価調査結果において、公演内容や劇場に関する総合的満足度の満足層の割合＝97%の維持（'09～'16年度）や市内経済波及効果＝約16.5～18億円（'13～'16年度）と算出されていることから、これまでの様々な活動により劇場が文化拠点として地域に浸透しており、これからもそれら活動の継続を期待されていると考える。



【有効性】

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

・国内外の芸術性の高い作品や社会的価値を持つ作品などの招聘・上演において、市の指定管理料や補助金が年々削減される中、アンケート調査の観客年齢や居住エリア、情報の入手経路などを把握しラインアップを構成することで、入場者数85%を達成し鑑賞人口の増加に繋がった。全国の劇場や実演芸術団体等との連携により、経済的な効率化にも努めながら、他地域や海外で制作された作品の受け皿として九州圏域の鑑賞の拠点施設としての役割を果たし、地方においても首都圏と変わらず舞台芸術を享受できる環境づくりを行うことで、地方間格差の解消を進めた。



(C)羽鳥直志

「寿歌」

作:北村想 演出:宮城聡
美術:カミイケタクヤ



(C) Laurent Philippe

フィリップ・ドゥクフレ/DCA

「新作短編集(2017)」

-Nouvelles Pièces Courtes」



キャサリン・ウィールズ劇団

「ホワイト」

from スコットランド

・幅広い世代が参加する作品や地域性を活かした作品など劇場オリジナルの作品創作において、第一線で活躍するアーティストや地域で活動する表現者、市民が一体となり多彩な創造活動に挑戦する場を提供し、地域の新たな才能の発掘や育成を行い、地域での創造源の確保に繋がっている。また、世界で活躍するカンパニーとの共同制作は、国内外への発信において大きな意味を持つとともにその創作活動を支援していくことが我が国の芸術文化の質の担保と向上に大きく貢献している。



(C) 梅本正裕

北九州芸術劇場プロデュース/市民参加企画

合唱物語「わたしの青い鳥2018」

作曲:長尾淳 指揮:樋本英一

ソプラノ:伊藤晴 ピアノ:白石光隆

作詞・ナレーション:能祖将夫

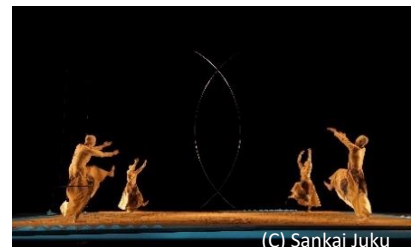


(C)トミタユキコ

北九州芸術劇場プロデュース

九州男児劇「せなに泣く」

作・演出:田上豊(田上パル)



(C) Sankai Juku

北九州芸術劇場×パリ市立劇場×山海塾
共同プロデュース

山海塾「Arc 薄明・薄暮」世界初演

演出・振付・デザイン:天児牛大

・高校生や社会人などを対象に知識や技術を習得する場や舞台芸術に関わる人々が集う研修の場を設けることで、市民だけでなく他地域の劇場関係者や表現者などとの劇場を中心とした人的ネットワークの形成や交流が生まれ、新たな関係性やつながりができた。また、人口減少や高齢化が進む中、教育現場や障害者・若者支援などの福祉現場、商業施設やサッカーチームなどの企業・団体、歴史的建造物や都市モノレールのような地域の観光資源など多種多様な主体との連携・協働による舞台芸術の持つ力を活かした継続的な取り組みが、それぞれが抱える課題の解決や地域における新しい発想を生み出す環境づくり、世代間交流の活性化に伴う新たなコミュニティの形成に繋がりを、地域への愛着や誇りを醸成した。



地域のアートレパトリー創造事業
リバーウォーク北九州との協働事業



ひとまち+アーツ協働事業
北九州市身体障害者福祉協会
アートセンターとの協働事業



キタQアーティストふれあいプログラム
演出家 守田慎之介アウトリーチ

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

・国内外の芸術性の高い作品や幼児や子ども向けの作品、社会的価値を持つ作品など多様な作品上演における実施期間については、当初の計画通りに遂行することができ、舞台芸術の多様性を観客に提示し、新しい価値観との出会いを創出した。集客面で苦戦したものもあるが、他事業で関係性のある個人や団体などへの地道なアピールや作品の特徴を捉えた効果的な広報展開などにより、収支のバランスを大幅に崩すことなく進めることができた。また、作品上演だけでなく事前レクチャーやワークショップなどの関連企画の実施に取り組んだことで、劇場や舞台芸術への興味や理解をさらに深めるきっかけをつくり、地域における文化活動の裾野拡大に繋げることが出来た。

・第一線で活躍するアーティストと市民や地域の表現者などとの作品創りにおいても、事前の講座やワークショップ～稽古・本番までの実施期間、事業費の収支バランスともに概ね当初計画に沿って進められた。演劇、ダンス、舞踏のジャンルにおいて地域資源を活用した作品や市民参加作品、カンパニーとの共同制作など作品創りの手法それぞれに特徴を持たせ、創造する劇場として国内外に向け発信することで市内のみならず市域外、海外からの来場者が例年よりも多く見受けられ、地域のアピールとブランド力向上の一助となった。

・普及・人材育成事業として位置づけられる若年層へのアプローチや地域にある様々な主体との連携による事業においては、個別に事業を進めていく中で期間の変更や収支バランスの微調整が発生することはあったが、大きな差はなく進めることが出来た。劇場内だけでなく劇場の外・街なかでの実施、他施設や団体などとの連携・協働による実施など実施形態も様々な形を取ることで、まだ劇場を知らない層にもアピールすることができ、舞台芸術により気軽に触れられる環境を整備することで劇場の認知度向上に寄与した。



「寿歌」事前レクチャー（写真左）

本作舞台美術を手掛けたカミイケタクヤ氏、演出の宮城聰氏の両氏と創作経験のある当劇場ローカルディレクター泊篤志が、カミイケ氏に作品や舞台美術、創作過程の裏話などをインタビュー。市民の関心や想像力を上げ、作品への理解を深めてもらう機会となった。



山海塾世界初演 多言語リーフレット（写真上）

国際的ダンスカンパニーの新作・ワールドプレミアにあたり、在住外国人及び海外からの渡航者へ広く発信するため、公演情報の英語版ホームページの立ち上げのほか、多言語リーフレットも作成し、国内外からの集客につなげた。

「市立子ども・若者応援センターYELL」でのワークショップの様子（写真下）

就労支援を必要とする若者を対象に行うプログラムでは、舞台芸術やアーティストとの触れ合いを通じて、コミュニケーション力や自己肯定感を高める手助けを行っている。最終日には公開WSを実施。



【創造性】

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

- ・東京、大阪のみならず海外からも積極的に作品を招致し鑑賞機会の充実を図るとともに、拠点劇場として西日本の牽引役を担っている。
- ・第一線で活躍するアーティストを2年間の長期スパンで「クリエイションパートナー」として招き職員と協働するほか、アウトリーチやワークショップの各プログラムでも、アシスタントに地元人材を起用。地元演劇人や市民との交流を通じてモノづくりへの視点や発想、ノウハウを地域に還元している。
- ・7年目を迎えた『Re:北九州の記憶』では、市民センターや市立図書館との連携企画を実施。戯曲を残し地域の中で活かす（知的財産の流通）という新たな展開を迎えている。

(例) 「Re:北九州の記憶」の事業展開



個人の記憶（財産）の共有

地域に住まう高齢者へのインタビュー

新たな
生きがい

世代間
交流

社会参加

記憶のアーカイブ化 (戯曲集編成)

個人の記憶を

地域の歴史財産として共有

(C)藤本彦

次世代への継承
学校鑑賞の実施



地域での知的財産の流通

市民センターでのリーディング公演実施、市立図書館朗読講座の教材として活用 など



【創造性】

・事業計画の責任者として開館当初からの職員を育成しプロデューサーに登用。地域性を考慮し北九州の地に根差した独自の事業展開が可能。

・市の文化行政経験者を運営責任者である館長に配し、劇場支配人等実務責任者にも市職員が就くことで、財団の持つ専門性や柔軟性を活かしつつ、市の文化政策を着実に進める組織を形成。

・舞台技術課長職にテクニカル職員を育成・登用し、テクニカルスタッフの安全や労務の監督者として制作部門と連携。特に作品創造の多忙な現場での高度なスタッフワーク形成に効果を上げている。

・地元で活動するアーティストや、地元企業に所属する舞台技術の専門家をディレクターに配置。地域と劇場の架け橋となり、事業展開や劇場運営における芸術性の向上、人材育成や人的ネットワークの拡大に貢献している。

・複合商業施設内高層階の配置により、来場者の飲食等消費行動が一定の経済効果を上げている。同居する美術館や映画館、新聞社や放送局等文化施設やマスメディアとの連携により、施設の全来場者に向けた情報発信が可能。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

・北九州市の基本構想「元気発進！北九州」プラン及び文化振興計画を踏まえた劇場運営を評価され、令和元年度から5年間の指定管理者として、引き続き市の文化振興の牽引役を期待されている。

・開館時から継続している『事業評価調査』では、利用者ニーズの把握とともに、社会や地域における劇場の役割・効果を検証し、劇場運営へ反映している。調査結果はホームページで公開し市民へのアカウンタビリティを果たすとともに、全国へ広く情報発信している。

・市内教育機関や企業、アートマネジメントや地域創生を学ぶ学生のほか、他地域の劇場関係者から「地域との協働」について知りたいとの要望を受け、ホームページに地域と関わる事業を紹介する項目を作成。企画趣旨や事業内容、成果も併せて掲載し、情報の共有・発信に加え、アーカイブ機能も果たしている。

・「劇場市民文化サポーター」の意見や公演アンケートを参考に、プロデュース公演『せなに泣く』では、事前告知を兼ねた関連動画のWEB配信を実施。来場者やマスコミ、外部の劇場関係者に好評を博し、広報コンテンツの強化につながっている。

・全国各地の自治体や劇場から視察の依頼が多数あり、地域資源や知的財産を活用した北九州ならではの取り組みから、新たな劇場建設にあたっての組織運営や事業評価手法、施設の維持管理・修繕計画など照会内容は多岐に渡る。

・継続実施している北九州独自の創造作品に対するマスコミからの評価は高く、「九州演劇界の底力を改めて示した」と評されるなど、毎年新聞各社からの取材依頼は絶えない。また高齢者の記憶を戯曲化し演劇で伝える『Re：北九州の記憶』では、作品中のエピソードに興味を持った記者が、自社の媒体で特集を展開する等二次的な広がりも見られた。

・開館当初より世界的舞踏カンパニー・山海塾の作品の上演を続けており、平成30年度は北九州で世界初演の作品を共同製作した。海外からも集客があり、国際的な注目度の高さを実感するとともに、「北九州芸術劇場」の名が世界に発信され、国際プレゼンスの向上にもつながっている。

【持続性】

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

・ 継続・安定的な人材確保のため、運営母体である財団の就業規則を見直し、高い専門能力を身に着けた職員を専門嘱託員とし、無期雇用とするキャリアアップ制度を開始。現在、劇場だけで21名の専門嘱託職員が誕生。今後も財団他部門への異動や交流人事、階層別の体系的な研修制度や人事評価を取り入れ、計画的に人材育成を進める。

・ 劇場職員に必要な知識や能力を養う研修はOJTを中心に、現場でしか得られない経験の蓄積を重視し、国内トップクラスのアーティストによるインリーチ、学校アウトリーチの現場視察、職員発案の独自研修など幅広く実施。劇場事業でつながった地元演劇人や企業と協力して若手人材の育成に取り組んでいる。また、建設業界に通ずる安全管理や技能、ホスピタリティ等外部講習を活用し、教養を得られる機会を設けている。



◎ 平成30年度劇場職員研修『夢を語る会』 ◎

館長から外部委託スタッフまで、劇場で働く全職員が一堂に会し、担当業務に限らない自由な発想で、劇場における新たな企画を考えるという研修を行った。各自が『劇場』という場のあり方を再認識し、部署を超えたスタッフ同士で共有する機会となった。

・ 令和元年度から5年間の指定管理者に指定され、安定した運営財源を確保。同時にチケット収入の概ね20%程度を支える現有料会員組織の発展とともに、地域の様々な団体とのネットワークを活用し、個人・団体レベルでの営業力強化を図る。

・ アウトリーチ事業では教育現場のニーズや課題を予め調査。子ども達や現場に配慮した丁寧なプロセスへの信頼や共感から、参加団体の拡がりやリピーターの定着が見られ、教育委員会等専門機関や実施校との連携が広がっている。

・ 福祉団体や企業等多様な領域との複数年に渡る協働事業では、互いの価値観を尊重・共有し、ともに地域や社会が持つ課題解決に向けて取り組んでいる。近年、連携団体が地元アーティストと独自に企画を実施するなど自発的な活動も増え、劇場単独では成しえない芸術文化の広がりや地域の活性化が確認できている。

・ PDCAサイクルの検証に担当以外の職員も参加して客観性を保ち、計画通り展開できているか、事業運営が適切か、新たな展望を持てるか等、成果や課題について共有・協議する場を設けている。